

ふるさとこの友だち

市川市 長谷川千代（五智出身）

たとえ期間が短くとも、住んだことのある土地とか、通った学校が、テレビにできると、画面に吸い寄せられる。八月十九日、NHKの朝のニュースで、「上越市高田の〜」という音声を聞いて、飲みかけの湯飲み茶碗をテーブルに置いて、テレビを見た。

ピンクの蓮の花の大写し、そしてお堀一面のはちす花、少しの間見入ってしまった。

私は、この六月に、ひよんなことから北城高校同窓会東京支部の支部長になってしまった。同期生二人と、二〜三年下の方々が、支部役員として、一緒に組んでくださることになり、大変心強く思っている。

私は一九四六年から五〇年の七月まで在学し、東京へ転居してしまい、高田とは長い間疎遠になっていた。高四卒のは

ちす会東京支部会に、時々出席していたが、仕事が厳しくなり欠席がちとなった。たまに、同期の高田高校と北城高校との合同の会合には出ていた。北城の東京支部の総会には九九年頃から参加したと思う。それまで役員の皆様にお任せで、そのご恩返しのつもりで役員さんのお手伝いをしたのが始まりだった。

同期生と高田で、また東京で会うと、方言が出て、気分は一気に十五〜六歳になってしまう。九六年秋、体調が悪く、大きな手術をした後で多少悲観的になっていた。

時間の余裕が出てきた今、思い出の地を訪ねようと思いい立ち、高田へ向かった。友人たちは暖かく迎えて、いろいろなプランをたて、リレーで思い出の場所へ案内してくださった。長義館に宴席を設けて、楽しい一時を過ごす機会もつ

くってくださった。

今年七月の本部の総会には、前記の二人と出席した。終了後、同期の方々とお茶をした。電車の時間を見計らって、本町の呉服屋さんに寄った。ここは同期生たちの連絡所のようなお宅で、みんな気軽に立ち寄り、お昼や、お茶をご馳走になって、話をしてゆく。勿論女主人は級友である。彼女は私たち三人に、お茶や果物まで用意され、待つていてくださった。私たちは電車の中で、旧友の暖かい心をかみしめながら、お弁当をいただいた。

やはり、ふるさとは良いものだ。たとえ短期間であっても、高田と住んでいた五智は、私にとつて多感な時代を過ごしたふるさとである。

